

船橋市教育委員会研究指定 小中一貫教育 短期3年（1年目）
大穴小学校・大穴北小学校・大穴中学校

1. はじめに

「小中一貫」ということで、中学校卒業の姿を見据えた研究を進めていかなければなりません。目の前の子供達が中学校を卒業するときに、どのような姿になってほしいか、このイメージを三校で共有するところからのスタートでした。学区は同じであっても、子供の実態は違います。子供達に身に付けてほしいものや先生方が身につけさせたいと思う力や願いは違います。それは、三校と言わず、先生方個人個人で少しずつ異なるものだと思います。それを三校で、足並みを揃えながら、同じ目標に向かって研究していく。難しいことで、乗り越えていかなければいけない課題は数多くあります。しかし、自校の研究だけではできなかったことや見えなかった視点が、きっとある。新たな発見も多くあると思うのです。先生方が楽しんで「やってよかった！」と思える研究となるよう、精一杯頑張りますので、力を貸してください。

2. 研究主題

自ら学び よりよく生きる子供の育成を目指す 小中一貫教育
～学びに向かう力を育む授業づくり～

3. 主題設定の理由

「自ら学び」とは、主体的に学習に取り組む態度を指し、個々の力に合った目標を見つけ、どうしたらその目標達成を達成できるかを主体的に考え、実践できる子供の姿を目指していきます。

「よりよく生きる子供」とは、中学校卒業後の進路決定や自分の未来に向かって自己実現していこうとする気持ちを育てることを目的とし、小学校の段階においては、「こうなりたい」「これをがんばりたい」といった目標をもつことや、その目標に向かって努力できる子供を指しています。

大穴中学校の学力テストの結果を見ると、感心意欲の項目において数値が極端に低いことがわかりました。そして、基礎学力が身についておらず、学ぶ意欲も低いため、進路決定が難しい現状にあることが課題として挙げられました。大穴北小学校では、与えられたことはできますが、自分から主体的にやろうとすることができず、課題があることが情報共有を通してわかりました。本校も、基本的な学習習慣は身につけているものの、家庭環境も相まっての学力の低さや個々の学力差が課題となっています。

これらの課題を解決するため、「自ら学び よりよく生きる子供の育成を目指す」ためには、「学びに向かう力」を育むことが必要であると考えました。今回は、「7つの習慣」「クラス会議」を切り口に研究を進めていきます。「7つの週間」によって自分を高め、「クラス会議」によって集団を高めることができれば、一人の力では解決することができなかった課題が、友達との関わりを通してできるようになる。さらに、この両面の機能を教科の授業に生かすことができれば、子供達が生き生きと学ぶ姿が見られるようになるのではないかと考え、本主題を設定しました。

糸井登・池田修著『伝説の教師 鈴木恵子 「明日の教室」発！ 子供の力を引き出す魔法の学級経営』には、感動ある学習の創造について、以下のように書かれています。

自力で解決しようとする主体的な目の輝きである。本気になって追求している子どもの目は必ず生きている。「おかしいな」と、悩む顔も「分からないな」と、当惑する顔も生きているのである。そんな子どもの心のひだの、小さな躍動を感動ととらえるならば、授業の中でも、そうした日常的な小さな感動場面を積み重ねていくことこそ、自分の生き方を決定するときの内なる力となるのではないかと考えた。

日々の授業の中で、子供の目が輝くような感動場面を大事にしていけば、子供達は伸びていく。自分の目標やよりよい未来に向かって進んでいく力を育てることができると捉えることができます。また、教育の最大の目的は、自立させることであるとし、自分の足で一歩歩き出すために最も必要なのが、自分への誇りであり、自信であり、自分が好き、仲間が好きという気持ちであると述べ、この自己肯定感を引き出すために、以下の4点が大切であると言っています。

- ①子どもの良さを信頼し、成長を期待すること
- ②自分自身に向き合わせること
- ③教師の喜びや感動を子どもの心に届くように伝えること
- ④一人一人が頑張りがいのある集団に育てること

この考え方は、研究主題に迫るものであると考えました。きっと先生方は、普段から日々授業をされる中で大切にしていると思います。今回の研究の機会をきっかけに、自分の授業を改めて見つめ直していけたらいいなと思っています。元メジャーリーガーの松井秀喜選手が高校時代の監督から贈られた言葉に、「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」というものがあります。「7つの習慣」によって子供達の人格形成がなされ、「授業が楽しい」「学ぶことが楽しい」「友達と関わることは楽しい」「もっとこうなりたい」「こんな自分になりたい」という思いを味わわせることができればと考えています。

4. 目指す児童生徒像

- ・学ぶことに興味・関心を持ち、自らの目標を目指して粘り強く取り組む児童生徒
- ・学びをつなげ、より良い考えを生み出し、選択できる児童生徒

5. 研究推進部 ※検討中のものもあります。

- ①生活習慣の改善・・・大穴小
- ②学習習慣の改善・・・大穴北小
- ③自己調整力の育成・・・大穴中

6. 研究の進め方

まず、3年後の公開当日をイメージしてみました。低学年では、7つの習慣の授業を、中学年では、クラス会議の実践を、高学年では、これまでの取り組みを生かした教科授業を展開することができたらいいと考えています。生活習慣を改善していくことで、日々の授業への取り組み方が変わり、生き生きと学ぶ子供達の姿につながるという様子を見せることができれば研究の成果であると思います。

この1年間は、3年後を見据えた土台作りの1年です。7つの習慣の実践を中心に取り組み、クラス会議も実践していきたいです。具体的には、以下の通りです。

<第1段階：知る>

- 1年生・・・プレ、1～3の習慣
- 2年生・・・4、5、6の習慣
- 3年生・・・7、(8)の習慣

紙芝居
形式

<第2段階：高める>

- 4年生・・・プレ、1～3の習慣
- 5年生・・・4、5、6の習慣
- 6年生・・・7、(8)の習慣

パワポ
形式

2段階のサイクルを作る
ことで、習慣がより浸透
していくと考えました！

7つの習慣とは、

- ①問題の見方を「インサイド・アウト」に変える
- ①主体的である
- ②終わりを思い描くことから始める
- ③最優先事項を優先する
- ④Win-Winを考える
- ⑤まず理解に徹し、そして理解される
- ⑥シナジーを創り出す
- ⑦刃を研ぐ
- ⑧自らボイスを発見し、ボイスを発見できるよう人を奮起させる

※6月1日（木）研修あります。

ここに、クラス会議の実践をしていきます。特活の年間計画と絡めたり、学活や道徳の時間を使ったりして実践していただけたらと思います。「この生活目標と絡めたら話し合いが盛り上がった。」「これは、ぜんぜん上手くいかなかった。」「この時期は厳しかった。」など、実践した反省をたくさん頂けたら嬉しいです。今年に出た反省が、次年度以降の研究につながっていきます。

指導案を書いて研究授業をといったものではなく、どんどん実践してみましょう。やってみることでわかることがたくさんあると思っています。また私は、「力のある教材」は子供に確かな力をつけると思っています。先生方が子供達に必要なと感じたタイミングで取り組んだことは、上手くいってもいなくても、子供達が伸びるきっかけになります。まずは、「やってみる」から。一緒に学んでいきましょう！

7. 年間計画

月	日	曜日	研究組織等	研究内容
4	18	火	三校合同会議① 研究推進委員会①	全国学力・学習状況調査
	21	金		児童像、主題、今後の研究の進め方話し合い
	24	月		今年度の研究の取り組み提案
	27	火		学力テスト（2～5年）
5	12	金	職員研修	「クラス会議」提案授業 5-2 神長学級
	15	月	研究全体会	研究の方向性を伝える。
	30	火	研究推進委員会②	
6	1	木	職員研修	「7つの習慣」研修「リーダーインミー」6年生の授業参観

	8 21 26	木 水 月	出前授業 三校合同会議② 研究推進委員会③	渡邊 尚久先生 講演 大穴中学校→大穴北小学校で授業を行う。 3部会の方向性を確認・修正 全体講演内容検討 教材づくり
7	20 24 25	木 月 火	研究推進委員会④	「7つの習慣」提案授業 1年 教材づくり・研究アンケートの内容検討 サマースクール } 大穴中の生徒 お手伝い サマースクール }
8	2 29	水	職員研修 職員研修	全体講師 文教台大学健康栄養学部 松田 素行 教授 講演 ※大穴北と研究アンケートの内容決定 ※ICTを活用したアンケート用紙の作成 1000か所ミニ集会「7つの習慣」研修 渡邊 尚久先生
9	25	月	研究推進委員会⑤	学校訪問 教材づくり
10	20 30	金 月	三校合同会議③ 研究推進委員会⑥	※研究アンケート実施 研究の進捗状況報告 実践報告
11	16 27	木 月	研究授業 研究推進委員会⑦	大穴小学校授業展開→大穴北？、大穴中参観 実践報告
12	21 22	木 金	三校合同会議④ 研究推進委員会⑧	研究の進捗状況報告 実践報告
1	29	月	研究授業 研究推進委員会⑨	大穴中学校授業展開 研究のまとめ
2	26 29	月 木	研究推進委員会⑩ 三校合同会議⑤	研究のまとめ・次年度の方向性について 来年度の研究の進め方
3	18 28	月 木	研究推進委員会⑪ 職員研修	※研究全体会 全体講師 文教台大学健康栄養学部 松田 素行 教授 講演